



2022年9月14日

株式会社ビーアンドピー
代表取締役社長執行役員 和田山 朋弥

2022年10月期 第3四半期 決算発表 質疑応答集

2022年9月9日(金)に発表いたしました2022年10月期 第3四半期の決算について、機関投資家・アナリストとの1on1 ミーティングや、株主の皆様より頂戴したご質問を回答と合わせて下記のとおり公開いたします。

なお、ご理解いただきやすいよう、一部内容の加筆・修正を行っております。

質問1：第3四半期までの進捗率について、売上74.1%、営業利益70.8%と第2四半期までと比べると勢いがいいように見えますが、通期での業績予想達成は問題ないでしょうか。

回答：

第2四半期末時点では、国内企業において3月末の年度末に向けての販売促進活動が活発になったことを反映し、売上進捗率51%、営業利益進捗率55%と順調な状況でした。第3四半期会計期間については第2四半期までと比べて進捗度合いが鈍る傾向にあり、第3四半期末時点の進捗率は例年70%~75%です。

なお、納期が第4四半期にずれ込んだ案件があるなかでの進捗となっていることや、第4四半期に大型案件を受注できていることを考慮しますと、通期での業績予想の達成の確度は高くさらなる上振れを目指し事業活動を行っております。

質問2：インクジェットプリント事業において受注が堅調とのことですが、その要因を教えてください。

回答：

主要拠点の東京・大阪エリアにおいては営業体制強化による案件獲得が進展しており、地方拠点の名古屋・福岡エリアにおいても事業拡大が順調に推移しております。いずれの拠点でもアフターコロナの需要回復を見据えた新規顧客獲得活動を積極的に行っております。

質問3：前年同期と比較して営業利益率が上昇しておりますが、その要因について詳しく教えてください。

回答：

当第3四半期累計期間においては資材価格の高騰の問題が発生しておりますが、当社においては、これを機に代替品の調達等の対策を実行するとともに、生産性向上への取り組みを強化して原価低減を進めております。

また、昨年10月の東京証券取引所マザーズ市場から同取引所市場第二部へ市場変更に関連して、前第3四半期累計期間において上場市場変更審査料や市場変更に関する業務委託費等の一時的な費用が発生いたしました。一方、当第3四半期累計期間において当該費用は発生しておりません。

これらの要因により、前年同期と比較して営業利益率が上昇しております。

質問4：新型コロナウイルス感染症等、種々の要因で経済が低迷することが予想される中、これからどのように事業を展開しようとしているのか、2つの新規事業を含めて今後の目論見や、展望を教えてください。

回答：

新型コロナウイルス感染症は、これまで国内経済に対して多大な影響を与えており、国内経済の一部はコロナ禍以前の状況に戻るのには難しいとの見方が伝えられております。当社の活動基盤である広告業界においても、将来的にはコロナ禍以前とは異なった事業構造に変わっていくことが想定されます。当社としては、こうした状況に対応するため来期に向けて、更なる事業拠点の開拓、インクジェットプリントの枠を超えた印刷技術の取り込み、それによる顧客層の拡大など、積極的な施策を行うための調査、検討を進めております。

また、デジタルサイネージ事業については、大型の受注を獲得できており、引き続き新たな商材やコンテンツを一元管理する仕組み（コンテンツ・マネジメント・システム）による映像配信システムの導入提案を積極的に進めることで事業規模の拡大を図ります。

更に、デジタルプロモーション事業については、従来のECサイトの運営サポートに加えてWEBプロモーションのキャンペーン企画の提案等を積極的に行い、契約件数の拡大を目指します。

質問5：8月から開始されたインクイットの狙いについて教えてください。

回答：

当社の主力事業であるインクジェットプリント事業においては、過年度より地域に密着した対面営業を中心に業績を拡大してまいりました。一方、昨今のコロナ禍によって不要不急の外出を控える消費者が増加し、ECサイトの需要も増していることから、このようなWEBによる全国からの受注に応えるべく、8月に新たなプリント通販サービスであるEC

サイト『インクイット』を開設いたしました。

『インクイット』は、注文前にオンラインで営業担当者と直接のやり取りが可能で、より細かなニーズに応えられる EC サイトとなっております。当社の強みである最先端インクジェットプリンターによる 24 時間生産体制・短納期対応を生かし、さらなる受注の拡大を目指してまいります。

以上